



京都総評議長
梶川 憲

議長あいさつ（要旨）

労働運動の力（ユニオンパワー）がいまほど社会から要請されているときはありません。分断と自己責任の道か、連帯と団結の道か、岐路に立っています。海外からの労働者は、今や一緒に職場や地域で働く仲間です。私たちは、「ジェンダー平等

第98回 京都総評 第98回 定期大会

京都総評 第98回 定期大会

つくろうジェンダー平等社会！



大幅賃上げを勝ち取るう！

最低賃金を直ちに
全国一律1500円に！

京都総評は、9月6日にラポール京都で第98回定期大会を開催し、代議員、特別代議員、役員など約150人が参加しました。大会には、5人の来賓の方にご参加いただき、あいさつを受けました。また、京都弁護士会長、京都府商工労働観光部長、京都市長、京都弁護士会会長など、多数の祝電・メッセージが寄せられました。大会は、2025年度運動方針案などすべての議案を満場一致で採択し、新役員を選出しました。また、大会宣言を満場の拍手で確認しました。

労働組合が職場と
社会を変える希望に

大会は、梶川議長のあいさつの後、全労連・九後副議長、全労協・渡邊議長、日本共産党・堀川衆議院議員、新社会党・駒井委員長、自由法曹団・福山弁護士から激励の

あいさつを受けました。

運動方針案の提案を行った柳生事務局長は、「この一年、組合員が抱える困難・問題意識から出発し、どう勝ち取るかを当事者である組合員とともに練り上げ、仲間を増やして、団体交渉やストライキなど労働組合の

交渉力を高めてたたかう

という『要求実現の求心力で仲間を増やす』運動のブラッシュアップをめざしてきた。そして、『対話と学び合い』の実践により、私たちの団結は一層深まったのではないかと、引き続き職場からの要求運動と社会的な賃金闘争を結合させ、京都総評の仲間力を集め、官民相互支援・激励の質上げのたたかいをすすめてすべての労働者の大幅賃上げを勝ち取る」と訴えました。また「単産と地域の情報結び、相互交流・相互研鑽をすすめる、『多様な経験から学び、新たな課題に挑戦する』という運動のプラットフォームをめぐし、全ての組織が職場・地域からのボトムアップで活動を強

化し労働組合の更なるパ
ーシジョンアップを図ろ

う。労働組合が職場と社会を変える希望となるよう、ともに前進しよう」と呼びかけました。

全国一律最低賃金の
必要性が浮き彫りに

最低賃金の改定に関して、今年の最低賃金改定は、全体の82%にあたる39道府県で目安答申を上回る答申が出され、目安答申の存在意義は失われていることから、全国一律最低賃金制度への法改正の必要性が浮き彫りになりました。

25秋闘から26春闘へ
運動を大きく

25年秋季年末闘争では、①全ての労働者・国民の賃金・所得の大幅引上げ・公務員賃金引上げへ官民総がかり行動・年末一時金闘争から26春闘への準備、②安心して暮らせる年金の実現、③対話と学び合いで組織強化・組合加入促進、④労働条件要求の前進と働くクルールの確立、⑤公共の拡充と社会保障制度の改善、⑥大軍拡許せず、憲法九条のいける社会の実現の6点をたたかいの柱として取り組むことを提起しました。



議案提案する
柳生事務局長

でも十分に議論を行うよう要望する」とされたことで、京都も含め発効日が遅れる答申が多数。岡山・岩手などでは12月発効、秋田・群馬では来年3月発効という答申が出されており、労働者の生存権保障の観点からも大問題となっている。改めて、最低賃金時間額1900円以上をめざし、ただちに1500円の実現と全国一律最低賃金制度を求める運動が大事になっていることが強調されました。

ジェンダー平等に向けた取り組みは、ジェンダー視点から実態把握のためのアンケートに取り組み、職場要求運動の推進をはかります。そして、実態調査をもとに、自治体への要請、社会課題の是正に向けた共同の取り組みをすすめることを提起しています。

来春は春闘と知事選挙の両方を闘います。北陸新幹線計画や原発でも軍拡でも、賃上げ支援でも、全国各県を見れば、国とは違う道を地方で開くことができる。「国どおり」ばかりの府政を変えるたたかいをすすめましょう。いまこそ、仲間を増やして要求実現、「労働組合で人間的連帯と団結を」と呼びかけ、ご挨拶とします。

大会で採択した2025年度運動方針、25年秋季年末闘争方針に基づいて、単産・地域で具体化し、運動をすすめていきましよう。



代議員の様子

次の方々から大会に来賓ご挨拶をいただきました。ありがとうございました。

来賓あいさつ

- 自由法曹団
京都支部
幹事長・弁護士
福山 和人
- 新社会党
京都府本部
委員長
駒井 高之
- 日本共産党
衆議院議員
堀川 あき子
- 全労協
(全国労働組合連絡協議会)
議長
渡邊 洋
- 全労連
(全国労働組合総連合)
副議長
九後 健治

戦後80年 被ばく80年の節目

しっかり気を
引き閉めない

京教組

菱山 充恵

「活気があった頃のよう
に、みんなでもっと怒
らないと……」という、閉
会式で話された被団協田
中聰司さんの言葉が忘れ
られません。核兵器をな
くす願いを持ってたぐさ
んの人が集まっているけ
れど、その勢いは戦後80
年の間に弱くなっている
のではないかと。だからこ
そ「核武装が安上がり」

平和を語り継いで
いきたい

福祉保育労

山田 真理子

被爆当時、妊婦だった
女性が、お子さんをガン
で亡くして、身体に原爆
の傷跡を抱えながら、先
に亡くなってしまった子

どもを思い、自分を責め
ながら生きているという
話を聞いて、原爆はその
人の人生までも壊してい
まったのだと思いまし
た。辛い経験は、実はそ
う簡単に誰かに話したい
ものではないかもしれな
いと思いました。

事実を知って
もらうことが大切

JMITU

宮崎 広成

日常から、誰からも話
してもらいやすい雰囲気
を心がけ、いろんな人た
ちとつながり、平和を語
り継いでいきたいと思
いました。

原水爆禁止 2025年 世界大会に参加して



聞いた事が今までなかっ
たのですが、実際に資料
を見て、お話を聞いてみ
ると人々が受けた被害の
様子が資料として見るこ
とができ、原子力爆弾と
いうのはとても非人道的
であり危険であると感じ
ました。

今現在、アメリカを含
め9つの国が核を保有し
ています。核の抑止力に
核を用いている現状を打
破するのは簡単なこと
ではないと思いますが、そ
れを実現に向け核兵器禁
止条約を締結するなど実
現に向けて進めている皆
様方のお話を聞き、こん
なにも努力している人達
がいるのに自分たちにで
きることは何かないだろ

うかといった気持ちにな
りました。
私が出来ることとし
て、まずはこういった事
実を人々に知ってもらう
事が大切であると思いま
した。そのため、今回自
分が見聞きした事を職場
の人達に伝える事を自分
の中で出来る活動として
行おうと思います。

ど、耳を塞ぎたくなるよ
うな経験をされたことを
改めて知りました。
2日目は平和公園、原
爆資料館、軍艦島周遊に
行きました。平和公園と
原爆資料館では8月9日
に落とされた原爆の威
力、悲惨さを改めて痛感
しました。

軍艦島に上陸はできな
かったが、代わりに近く
の高島に上陸し模型を見
ながら説明を受けました。
3日目は集会の方に参
加し、海外の方のお話を
聞き、核兵器を持ってい
けない、と訴えている
のが被爆国である日本だ
けではないということが
わかった。

今回の原水禁大会の参
加で学んだことは、今あ
る生活は当たり前ではな
く、尊い命が沢山失われ
て作られたものであると
いうこと。

原爆で一瞬にして多く
の命が奪われ、被爆した
方も心と身体に大きな傷
を負い、苦しみ続けた。
その方たちが同じ悲劇を
繰り返さないようにと活
動を続けてくださった結
果、今私は伝えることな
く平和な日々を過ごせて
いる。このことを忘れず
これからも変わらない日
々が続くよう自分事とし
て出来ることをしていこ
うと思います。

海外からの参加者
がとて多く
JMITU
小畑 圭史
被爆80周年ということ
で大会の規模も大きく、
分科会では被爆者本人の
話を交えながら、原爆の
悲惨さ、後に残された心
情など貴重なお話を聞く
ことができ、今まで以上
に熱意のこもった大会で
した。そしてこの話を何
度も伝えていくことが大
切であり、「今日の聞き
手は明日の話し手」とい
う語り継いでいくことの
重要性を再確認するこ
とができました。

今までの生活は決して
当たり前ではない
JMITU
角野 真敏
世界大会に出席し、被
爆者の実体験から「核兵
器は存在そのものが危険
である」と学びました。
被爆者は広島・長崎の人
々だけでなく、開発に関
わった人々もまた核によ
って命や健康を奪われた
と聞き、その影響の広さ
に衝撃を受けました。

近年、争いの抑止力を
理由に核保有を正当化す
る国が増えています。が、
その開発や保管の段階で
も原爆と同様の被害が起
こり得ることを忘れては
ならないと強く感じまし
た。

一方で、全世界で安全
が保障される国と国との
関係は、そう簡単には築
けないとも思います。
仕事で海外の方と関わ
っていく自分としては、
互いの文化や価値観を理
解し合い、信頼関係が少
しずつでも深まっていく
ことを願っています。

また、この3日間を通
じて、今の生活は決して
当たり前ではないと実感
し、時間を大切にしてこ
れからも生きていきたい
と思います。

大 会 宣 言

私たちは、今年の臨時大会で「京都総評ジェンダー平等宣言」を採択しました。

そして、この一年、「自分事の要求」を大切に、「対話と学び合い」を通じて組合員の
主体性を高め、要求の求心力で仲間を増やし、団結を深め、要求実現をめざしました。そ
れらは、単産のストライキなどへの支援や、公務員賃金引上げをめざす官民総がかりのた
たかい、教職員の給特法改正に対する「せんせい増やそう」キャンペーンなどに結びまし
た。ストライキに立ち上がった生協労組の組合員は「改めて味方が多い心強い団体だ」と
確信し、公務災害認定を勝ち取った組合員は「組合に入っていてよかった」と語り、福祉
保育労学児裁判での勝利判決でも、いっそう団結を深める到達を楽しみました。

25春闘では、昨年に続く8,000円台の賃上げを勝ち取りましたが、物価高騰を上回る賃
上げには程遠く、低額回答が続くケア労働者や抑制されている中高年層の賃上げなどの要
求実現へたたかいを強化する必要があります。最賃闘争では、3年連続で1万筆を超える
京都最賃署名が後押しとなり、中央の目安を1円上回る答申を引き出しました。あわせて、
国に対して中小企業支援策の強化などを求める要望も積み上げました。今こそ、賃金
が上がる国をつくりましょう。

26春闘に向けて「すべての労働者・国民の賃上げ・所得の大幅引き上げ」をめざし、官
民総がかりでの賃上げの好循環をつくりあげ、物価高騰を上回る大幅賃上げと京都での必
要最賃時給1,900円の実現で生活を改善させましょう。労働基準法の解体を許さず、働く
ルールの確立を勝ち取りましょう。公共の再生や社会保障の充実、年金制度の改善で安心
して暮らせる地域と社会をつくりましょう。

今夏の参院選では、物価高騰への悲鳴に対する無策と裏金問題も抱える自民党政対
して審判が下り、与党が衆参両院で過半数割れとなりました。一方、改憲や排外主義を掲
げる勢力や与党を補完しようとする勢力の伸長で、世論と運動とのせめぎあいが強まる情
勢です。日本被団協がノーベル賞を受賞し、平和を求める世論が広がる一方、国内では大
軍拡が進んでいます。京都でも、祝園弾薬庫の増設や舞鶴基地の強靱化などが進められて
います。戦後80年・被爆80年、軍拡ではなく対話での国際平和を実現するため、憲法を守
り生かすたたかいに奮闘しましょう。

北陸新幹線京都延伸計画の中止にむけて、府民との共同を広げ、来春の府知事選挙で決
着をつけましょう。

いま、分断や自己責任が煽られるなか、連帯と共同を何よりも大切にする労働組合は、
職場や社会を変える希望です。このことを確信に、要求の実現と仲間づくりを進めること
を、すべての仲間呼びかけます。

以上、宣言します。

2025年9月6日

京都地方労働組合総評議会 第98回定期大会